

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Cisplatin resistance in human lung cancer cells is linked with dysregulation of cell cycle associated proteins	共著	2015 年 1 月	Life Sciences Vol. 124 pp. 31-40	肺がん細胞株 A549 細胞およびそのシスプラチン耐性細胞を用いて、細胞周期調節タンパク質とシスプラチン耐性化の関与について新たな知見を報告した。 (総ページ数: 10 頁) <著書全体の著者名: Sayo Horibe, Akira Matsuda, Toshihito Tanahashi, Jun Inoue, Shoji Kawauchi, Shigeto Mizuno, Masaki Ueno, Kyohei Takahashi, Yusaku Maeda, Tatsuya Maegouchi, Yoshiki Murakami, Ryoko Yumoto, Junya Nagai, Mikihisa Tanano)> 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (報告・発表) ヒト肺がん由来 A549 細胞のシスプラチン耐性獲得における細胞周期調節因子 cdc2 の関与	共著	2014 年 3 月	第 134 年会日本薬学会(熊本)	シスプラチンは固形がんにも有効であるが、長期および反復投与によりに耐性を示すことが問題となっている。そこで肺がん細胞株 A549 を用いて、シスプラチン耐性化における細胞周期調節因子 cdc2 の関与について、新たな研究成果が得たため、報告した。 (著書全体の著者名: 堀部紗世、高野幹久、永井純也、湯元良子、河内正二、棚橋俊仁、水野成人、松田 明、児玉頼光) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (報告・発表) シスプラチン獲得耐性 A549 細胞におけるシスプラチンの G2/M チェックポイントに及ぼす影響	共著	2014 年 9 月	第 73 回日本癌学会(横浜)	固形がんにも有効な抗がん剤であるシスプラチンに耐性を示す肺がん細胞株を用いて、シスプラチンが細胞周期 G2/M 期に与える新たな影響が明らかとなったため、報告した。 (著書全体の著者名: 堀部紗世、棚橋俊仁、松田明) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (報告・発表) ヒト肺がん細胞株 A549 細胞のシスプラチン耐性化により発現変動する遺伝子の探索	共著	2015 年 3 月	第 135 年会日本薬学会(神戸)	固形がんにも有効な抗がん剤であるシスプラチンは、長期および反復投与による耐性化が問題となっている。そこで肺がん細胞株 A549 細胞およびそのシスプラチン耐性細胞株を用いて、発現量が異なる遺伝子を発見したため、報告した。 (著書全体の著者名: 小田 剛、森田 美咲、堀部紗世、松田 明) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (著書) 薬学分析化学	共著	2015 年 1 月	廣川書店	著書全体の概要: 薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成 25 年度改訂版)に合わせ、その中の「C2 化学物質の分析」中の(1)分析の基礎、(2)溶液中の化学平衡、(3)化学物質の定性分析・定量分析を網羅した著書となっている。この中で、「酸化還元滴定法」および「重量分析」について執筆した。 (総ページ数: 297 頁) <著書全体の著者名: 足立 茂, 大高 泰靖, 片岡 洋行, 四宮 一総, 澁川 明正, 知久馬 敏幸, 萩中 淳, 張替 直輝, 松田 明, 松永 久美, 森本 正太郎)> 本人担当部分: 4 章内の 4-6 および 4-7(192 ページ~229 ページ、単著)